

やまぶき

第16集

〈学校教育のための博物館活用の手引き〉



川越市立博物館

あいさつ

川越市教育委員会
教育長 新保 正俊

平成28年12月、中央教育審議会答申において、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し「社会に開かれた教育課程」を目指すべきと提言されました。これを受け各学校には、学校と社会がこれまで以上に相互に連携し、特色ある教育活動を推進することが期待されています。

川越市教育委員会においては、次期学習指導要領に向け「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るために、学び合い、高め合いのある授業づくりを推進するとともに、子どもたちの「生きる力」を育成するため、様々な事業を展開し学校教育の充実に努めなければなりません。

川越市立博物館では、学校の教育活動への博物館活用を推進し、児童生徒の学習を支援するとともに、子どもたちの豊かな心を育てる体験教室や教員を対象とした研修会などを開催し、学校との連携を進めております。また、開館以来「博学連携」の中核組織として活動してきた博物館利用研究委員会では、小・中学校の教員と博物館職員が協働して、学校教育における博物館活用の研究を進めております。

平成27・28年度の2年間の継続研究では、「博物館（人・もの・箱）を活用した授業づくり―社会科・英語・総合的な学習の時間における博物館の効果的な活用―」をテーマとしました。博物館職員が実物資料を持って学校に出向いて教室で教員と一緒に授業を行う訪問授業や、逆に実物資料に限定されない柔軟な博物館活用の方法の研究を通して、子どもたちが学び合い互いに高め合う授業をつくる研究・実践を重ねて参りました。

これらの成果としてまとめられたこの「やまぶき第16集」は、これまでと同様に川越市立博物館のホームページにて掲載いたします。各学校にて、このホームページ及び博物館資料を活用し、各教科等の中で役立てて頂ければ幸いです。

結びに、今日まで熱心に研究頂き、本資料の作成に尽力された博物館利用研究委員会の委員の皆様方に、心からお礼申し上げ、あいさつといたします。

博物館利用研究委員会
委員長 山 上 泉

次期学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」をキーワードに、子どもたちに新しい時代を切り拓いていくために必要な資質や能力を育むため、学校が社会や世界との接点を持ちつつ、多様な人々とのつながりを保ちながら学ぶことができる、開かれた環境となることが不可欠であると言われています。特にこれからの学校教育においては、「主体的・対話的で深い学び」つまり能動的な学習が重要になります。博物館の積極的な活用は、必ずやその一助になるものと確信しております。

これまで川越市博物館利用研究委員会では、博学連携を推進し、先駆的な研究を平成元年から続けてきており、全国的にも知られているところです。その中で昨年と今年の2年間は、研究主題を「博物館（人・もの・箱）を活用した授業づくり ―社会科・英語・総合的な学習の時間における博物館の効果的な活用―」をテーマに、昨年度が12名、今年度が10名の教職員を委嘱し、指導カード作成と授業実践に取り組み、研究を進めてきました。英語については、2020年東京オリンピック開催にあたり、川越がゴルフ会場となり訪問する外国の観光客を意識して取り組みました。

川越市小・中学生学力向上プランの地域の力のなかでも市立博物館と学校の連携強化を謳っています。次代を担う子どもたちが生まれ育った川越に愛着を持ち、そのよさや魅力を継承・発展させていくことが、郷土川越に誇りをもち、国際社会で活躍する日本人の育成につながると捉えます。学校の教員が気軽に博物館と連携し、必要な資料を収集したり、時には博物館職員をゲストティーチャーとして招聘するなどの実践例を、この「やまぶき第16集」に掲載しました。各学校におかれましては、積極的な活用を図っていただくことを切に願ってやみません。

結びに、本研究を進めるにあたって、ご尽力いただいた委員の皆様をはじめ、各校の校長先生方、またご指導・ご助言をいただきました川越市教育委員会の先生方並びに川越市立博物館の皆様には厚く御礼を申し上げ、あいさつといたします。

博物館利用研究委員会

目的

- 学校の教育課程に位置付けた博物館・文化財の活用の研究と実践
- 地域に根ざした博物館・文化財活用の研究

研究開発

各教科・領域の学習に活用できる博物館資料や文化財の研究・授業実践

教育普及

博物館活用の手引き
「やまぶき」の発行
博物館活用指導者研修会

校外学習支援

学習カード・指導カードの作成・配布

博物館利用研究委員会

委員長

事務局

副委員長

社会科研究部

英語研究部

総合的な学習の時間研究部

平成27・28年度の研究

博物館（人・もの・箱）を活用した授業づくり
—社会科・英語・総合的な学習の時間における博物館の効果的な活用—

■博物館利用研究委員名

武蔵野小学校校長	山上 泉（委員長）	福原中学校教頭	齊藤 信行（副委員長）
仙波小学校教諭	秋山 義紀	月越小学校教諭	大崎 雄太
牛子小学校教諭	西村 彩	今成小学校教諭	遠藤 李衣
高階西小学校教諭	中西 智子	川越第一中学校教諭	中井 享
名細中学校教諭	富澤 範光	砂中学校教諭	後口 洋史
初雁中学校教諭	村本 秀男	高階中学校教諭	福井 直子

（H27 年度）

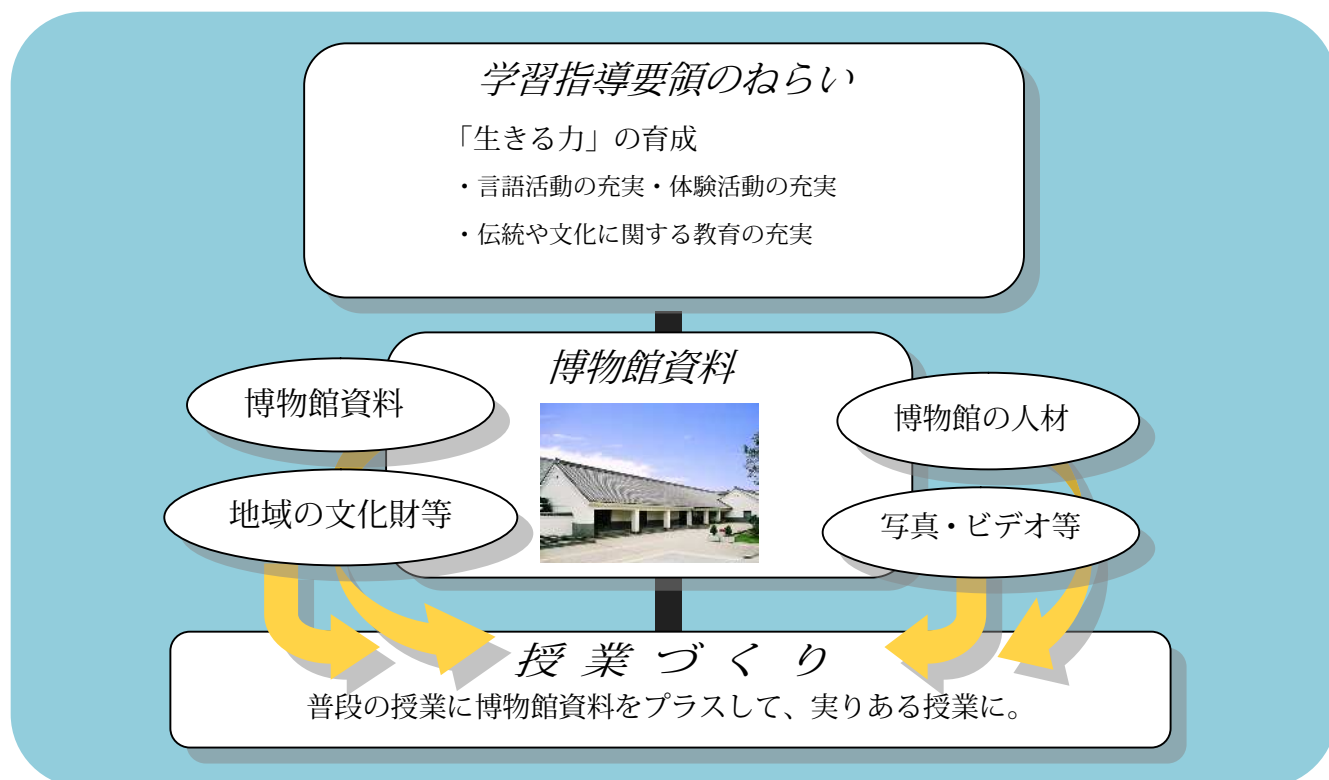
高階西中学校教諭	森田 幸男	寺尾中学校教諭	照井 悠子
----------	-------	---------	-------

■担当した職員

須田 浩司（指導主事）	寺内 和広（指導主事）	岡島 光次（指導主事）
-------------	-------------	-------------

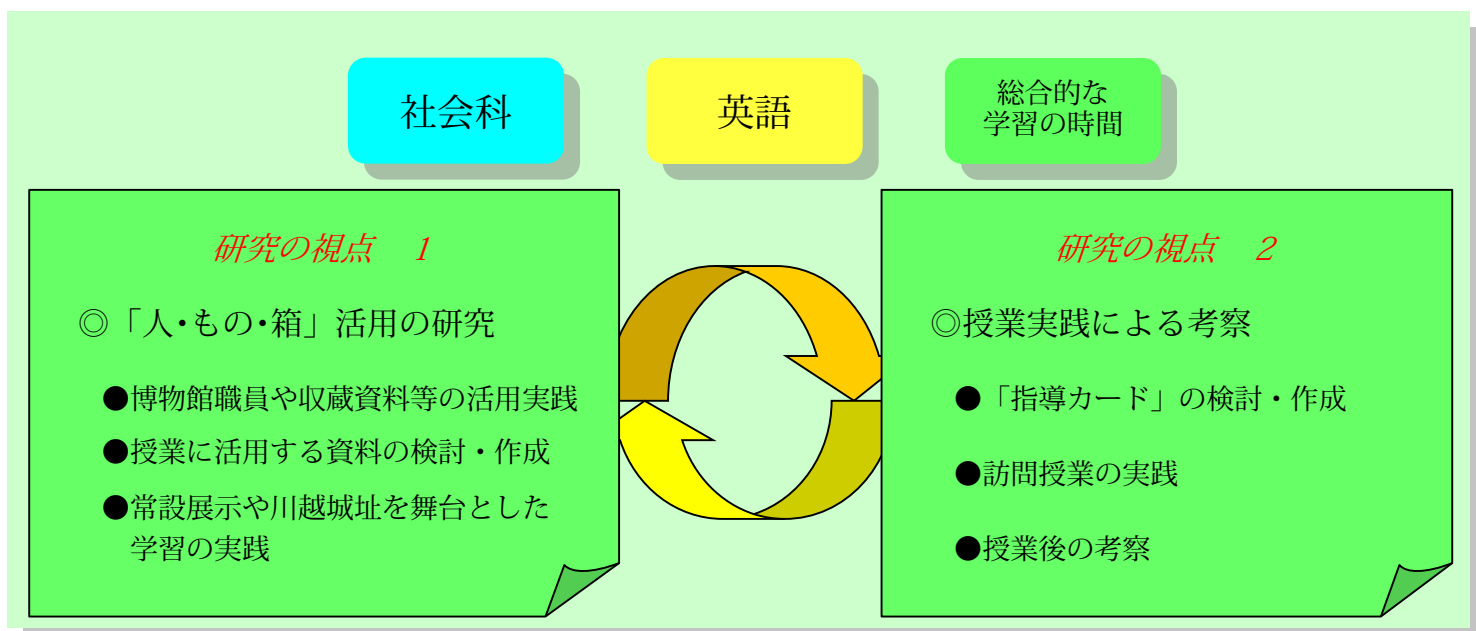
（H27 年度）

- 研究主題 -



研究主題 「博物館（人・もの・箱）を活用した授業づくり」
—社会科・英語・総合的な学習の時間における博物館の効果的な活用—

研究の視点と手だて



小学校第4学年 社会科 指導カード

1 小単元名 「火事からくらしを守る」

2 指導計画（12時間扱い）

- （1）川越市内の火災に関心をもとう・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- （2）火災が起きたときの活動を調べよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- （3）消防署の様子や仕事について調べよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・3時間
- （4）火事を素早く消すための工夫を調べよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間
- （5）学校や地域にある防火や消火のための設備・施設を調べよう・・・・・・2時間
- （6）昔の消火活動はどのようにしていたのか知ろう・・・・・・・・・・1時間（本時）
- （7）学習のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間

3 実際の指導（10／12時間）

（1）目標

＜関＞博物館の資料から、過去の消火活動への関心を高める。

＜表＞博物館の資料や職員の話をもとに、感じたことを自分の言葉でまとめることができる。

＜思＞資料を活用して、現在と過去の消火活動の違いを知り、現代の消防活動の工夫を知り、まとめることができる。

（2）本時に活用する資料

教科書ページ	資料名(図録ページ)等	活用の仕方	ねらい
かわごえ（P44～55）	・竜吐水 ・鳶口 ・纏（写真） ・刺股（学校のもの）	・博物館職員から資料について解説を聞く。	・現代と過去の消火活動の違いを知り、現代の工夫に関心をもたせる。

（3）展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名	時間
1 本時の課題を確認する ・課題の把握	○博物館職員を紹介する。 □自己紹介をする。 ○現在のような消防組織ができる前は、どのように火を消していたのか、見通しをもてるようにする。		2分
昔の人たちの消火活動は、どのように行っていたのだろう。			
2 課題について予想を考え、話し合う。	○これまでの学習から、過去の消火活動に興味をもち、消火するためにどんな活動をするのか考える。		4分

3 現在と過去の消防について比較しながら、博物館の方の話を聞く。	☆現代と過去の消火活動について関心を持ち、意欲的に考えることができる。関〔発言・ノート〕 □破壊消防と竜吐水使用の様子を説明する。 ○今の消防より消火に時間がかかることを確認する。 ○現在の消防隊や消防団との共通点などについて確認する。 ○現在の消防の専門性や常に稼働できる体制などを取り上げ、優れている点について確認する。		24分
4 本時の学習を振り返る。 (1) 感想用紙の記入 (2) 感想発表	○現代と過去の消防の比較をもとに、現在の消火活動の工夫などを考え、まとめる。 ☆現在と過去の消防比較をもとに、現在の消防の仕組みのよさや、工夫などをまとめることができる。思〔ノート〕	・ノート（感想）	10分
5 本時のまとめ ・教師、博物館職員から	□本時のまとめの話をする。 ○本時を振り返り、感想を書かせる。 ○感想発表をさせる。 ☆博物館の資料や職員の話をもとに、感じたことを自分の言葉でまとめることができる。表〔発言・ノート〕		5分

4 成果

- ・実際の資料を用意することによって児童の興味関心が高まった。また、配慮の必要な児童も資料をよく見たり、話を聞いたりして自分なりの意見を考えることができていた。
- ・「初めて消火をするときに壊すことを知り驚いた。」「今と昔の消火の違いを知り、今の消防活動の素晴らしさを知ることができた。」「今の消防活動をさらに良くして行きたいと考えた。」「火事が起こらないようにさらに自分でも気をつけて行きたい。」という児童の感想を聞くことができた。
- ・博物館の「ひと」や「もの」を活用しながら、昔の道具と今の道具の比較をすることで実感を伴った指導となったため、次年度以降も活用していくことの大切さを知った。

小学校第6学年 社会科 指導カード

1 単元名 「明治の国づくりを進めた人々」

2 指導計画（8時間扱い）

- (1) 江戸から明治へ 1 時間
- (2) 明治の新しい世の中 1 時間
- (3) 若い武士たちが幕府をたおす 1 時間
- (4) 川越では文明開化は起こったのか 1 時間(本時)
- (5) 大久保利通と明治新政府の改革 1 時間
- (6) 板垣退助と自由民権運動 1 時間
- (7) 伊藤博文と国会開設、大日本帝国憲法 1 時間
- (8) まとめ 1 時間

3 実際の指導（4／8時間）

(1) 目標

〈関〉黒船の来航から明治維新、文明開化などの時代の変化とともに、廃藩置県、四民平等、大日本帝国憲法の発布などの諸改革を行ったことを身近な事例から調べようとしている。

(2) 本時に活用する資料

教科書ページ	資料名（図録ページ）等	活用の仕方	ねらい
・新しい社会 6 上 P110～113	・高札 ・日本橋京橋之間鉄道馬車 往復之図(ターポリン) ・明治時代の川越古写真 (スライド)	・博物館職員から当時の 川越の様子を聞く。 ・博物館の実物資料を 観察、記録する。	・博物館職員の話を見たり、実物資料を 観察したりすることで江戸から明治にか けての当時の川越の 様子を理解する。

(3) 展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ □博物館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名	時間
1 前時の確認をする。	○江戸時代末ごろと明治時代初めに、西洋の文化が日本に入り、文明開化が起こったことを確認する。		2 分
2 ゲストティーチャーを紹介する。	□自己紹介する。		
3 資料を提示し、班ごとに文明開化し	○資料をもとに、文明開化が起こった箇所を班で見つけさせる。	・日本橋京橋之間鉄道馬車往復之図	5 分

ている場所を見つけ、発表する。	・レンガの建物 ・馬車鉄道 ・乗合馬車 ・人力車 ・洋傘 ・電信 ・洋服 ・帽子 ・ガス灯 □資料を用いて、確認する。 ○資料に描かれている場所を児童に予想させ、川越でないことを確認する。	→プリント資料(配布) →ターポリン(掲示) 	
4 本時の課題を確認する。	明治になって、川越では文明開化は起こったのだろうか。		3 分
5 博物館職員から、明治になったころの川越の様子について話を聞く。	□実物資料を提示し、明治になった頃の川越の様子について話をする。 ◎高札を見せることで、新政府の通達が川越にも素早く伝わったことを確認する。	・高札 ・教科書 	5 分
6 川越に文明開化が起こったのかについて個人で予想し、班で話し合い、発表する。	○川越にも文明開化が起こったのかを児童に予想させ、班で話し合わせる。 ○班の意見を板書する。 ☆川越にも文明開化が起こったかについて予想し、進んで話し合おうとしている。【関】		17 分
7 博物館職員から当時の川越の文明開化についての話を聞く。	□川越に文明開化が起こったのかについて話をする。	・古写真スライド 	10 分
8 本時のまとめをする。	明治になって、川越では（日本橋より後になるが川越大火からの復興の中で）文明開化は起こっていった。		3 分

4 成果

- ・いつもの環境とは違い、目新しい資料が教材として入ってくることによって、子どもたちの興味・関心が一気に高まった。また視覚に訴える資料だったので、どの子もすんなりと授業に入ることができていた。
- ・児童から「資料を見ながら学習できたので、より頭に入ってきました。」「川越がすごく発展していることが分かり、とても嬉しく思いました。」などという声を聞くことができた。
- ・計画の出来ていない段階で打ち合わせに行ったが、博物館職員と一緒に授業づくりをすることができイメージが共有しやすかった。

小学校第6学年 社会科 指導カード

1 単元名 「長く続いた戦争と人々の暮らし」

2 指導計画（7時間扱い）

- (1) 世界文化遺産の原爆ドーム・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- (2) 中国との戦争が広がる・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- (3) 戦争が世界に広がる・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- (4) 生活すべてが戦争のために・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間（本時）
- (5) 空襲で日本の都市が焼かれる・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- (6) 原爆の投下と戦争の終わり・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- (7) 学習のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

3 実際の指導（4／7時間）

(1) 目標

＜関＞博物館の資料から、戦時下の国民の生活に興味をもち、意欲的に考えている。

＜表＞資料から、戦時下の国民の生活について分かったことや感じたことを自分の言葉でまとめることができる。

(2) 本時に活用する資料

教科書ページ	資料名（図録ページ）等	活用の仕方	ねらい
・生活すべてが戦争のために（P.134～135）	・防空指導画劇 「我等の防空」	・戦時中の紙芝居の読み聞かせを通して、当時の生活について考える。	・当時実際に指導されていた「防空必携」の内容に触れることで、当時の戦争の状況や生活の様子について考える手がかりとする。

(3) 展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ ☆評価	□館職員の働きかけ ◎資料活用のポイント	資 料 名	時 間
1 戦争について知っていることを発表させる。	○戦争について知っていることを発表させ、この戦争が日本国民の生活に与えた影響について興味をもたせる。			8 分
2 本時の課題を確認する。				
・課題の把握				
	戦争中、人々はどのような生活をしていたのだろうか。			

3 紙芝居を見る。	○戦争中に読まれていた紙芝居を見て、戦時中の生活の様子や戦争についての考え方を知る。 □事前に「防空必携」の時代背景や用語、意味などを読み合わせしておく。	・紙芝居 「防空必携」	15分
4 紙芝居を聞いて感じたことや思ったことを発表する。	○紙芝居を聞いて、現在の生活と違うことや疑問に思ったことなど話し合い、発表させる。 ☆戦時下の国民の生活に興味をもち、意欲的に考えている。<u>関</u>	・ノート	10分
5 その他のくらしの様子について教科書を使って調べ、ノートにまとめる。	○紙芝居から感じ取った「生活の中に戦争が入っている」国民の生活の様子を、他の資料を調べて補完する。 ☆資料から、分かったことや感じたことを自分の言葉でまとめることができる。<u>表</u>	・教科書 ・資料集	10分
6 本時のまとめと次時の予告	○本時のまとめと次時の話をする。		2分



(4) 成果

- 子どもたちは馴染みのある紙芝居という形式だったので自然と聞く体勢になり、いざ内容に入ると現代との違いに「わー、なんだろう？」とすごく真剣な表情で聞くことができていた。
- 戦争当時の防空訓練の様子を知ること、当時の人々の考え方や生活の様子を考えることができた。

中学校第 1 学年 社会科 指導カード

1 単元名 「古代までの日本～日本はどのように国としてまとまっていったのだろう～」

2 指導計画（7／9 時間扱い）

- （1）人類の出現と進化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 時間
- （2）古代文明のおこりと発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 時間
- （3）中国文明の発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 時間
- （4）ギリシャ・ローマの文明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 0.5 時間
- （5）宗教のおこりと三大宗教・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 0.5 時間
- （6）日本列島の誕生と縄文文化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 時間
- （7）弥生文化と邪馬台国・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 時間
- （8）大王の時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 時間（本時 1/2）
- （9）単元のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 時間

3 実際の指導（7／9 時間）

（1）目標

＜知＞大和政権がどのように勢力を広げていったのかを、日本の国としてのまとまりという視点から追究し、身近な地域資料やゲストティーチャーの解説等を適切に活用して理解する。

（2）本時に活用する資料

教科書ページ	資料名（図録ページ）等	活用の仕方	ねらい
大王の時代（p36～37）	・川越市内の古墳の分布図、三変稲荷神社古墳写真資料、浅間神社古墳写真資料、愛宕神社古墳写真資料 ・三変稲荷神社古墳出土鏡写真資料 ・土師器、須恵器	・資料を全体に提示する。 ・博物館職員から、資料について解説を聞く。 ・各班に土師器と須恵器の実物資料のセットを用意し、手にとって比較させる。	・身近な地域にも大和政権とかかわりをもった人々がいたことに気付かせる。 ・大和政権が高度な技術を利用して地方の豪族とつながりをもっていたことに気付かせる。 ・大和政権が進んだ大陸の文化や技術を手に入れていたことを理解させるとともに、渡来人の役割にも気付かせる。

(3) 展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ ☆評価 □館職員の働きかけ ◎資料活用のポイント	資料名	時間
1 大和政権の成立についての既習知識を確認する。 ・近畿地方に前方後円墳が集中 ・強大な勢力の誕生 2 大和政権と川越の豪族の関係を考える。 ・前方後円墳が川越に存在している意味 3 本時の学習課題を知る。	○小学校での「巨大古墳と豪族」「大和朝廷と国土の統一」の学習内容を効率的に活用する。 ○本授業における大和政権の定義を明確にしておく。 ◎川越市内や校区内にも、前方後円墳が存在することを知り、大和政権がどのように勢力を広げていったかを予想することにより、本時の授業に対する関心を高める。	・大仙古墳の写真  ・川越市内の古墳の分布図 ・身近な地域の古墳の写真	
大和政権はどのように勢力を広げていったのだろう。			
4 大和政権がどのように勢力を広げていったかを予想する。 ・武力による制圧 ・同盟を組んだり、グループをつくる ・ものや技術を利用 5 ゲストティーチャーから情報を収集し、整理する。 ・前方後円墳や出土品が意味すること ・「ワカタケル大王」の文字が刻まれた鉄剣と鉄刀 ・大和政権の勢力範囲 ・渡来人が伝えた大陸文化 6 渡来人が伝えた文	○個人で予想を立てさせ、それをもとに班で意見をまとめ、発表させる。 ○予想の範囲が広がりすぎないように留意する。 ○各班の予想結果をおおまかに分析して、学級全体に紹介し、次時の授業まで掲示しておく。 □ゲストティーチャーに、前方後円墳や鉄製の副葬品を中心にその意味を専門的な立場から解説してもらい、大和政権がどのように地方豪族と関係をつくっていったかについての情報を収集する。 ◎「ワカタケル大王」の文字が刻まれた2本の鉄剣と鉄刀の出土から、大和政権の勢力が九州から関東地方まで広がったことを気づかせる。 ○埴輪などの副葬品については、小学校での学習成果を効率的に活用することとし、大きくは扱わない。 ◎当時の日本は、朝鮮半島の伽耶地方から鉄を輸入していたことを資料から押さえ、大和政権が朝鮮半島の国々とも関係をもち、鉄を入手できる力をもっていたことにも気付かせる。 ◎鉄や須恵器などに関連させて、漢字や儒教など	・ワークシート ・予想を記入する用紙 ・三変稲荷神社古墳出土鏡の写真 ・金錯銘鉄剣の写真 ・須恵器、土師器 ・ワークシート  ・教科書の東アジアの地図 ・ワークシート	

化と日本とのかかわりに気付く。 ・日本に影響を与えた文化—儒教、仏教、漢字 7 大和政権がどのように勢力を広げたかを文章でまとめる。	渡来人が伝えた大陸文化の内容や果たした役割を理解させる。 ○班で簡単に意見交換を行わせ、その結果を自分の言葉でまとめさせる。 ○ねらいに迫っていると思われる生徒を指名し、発表させる。 ☆大和政権がどのように勢力を広げていったのかを、日本の国としてのまとまりという視点から追究し、身近な地域資料やゲストティーチャーの解説等を適切に活用して理解している。知		
大和政権は、武力を使うだけでなく、先進文化や技術を利用しつつ、地方の豪族と関係をつくり、勢力を広げていった。			
8 次時の予告	○大和政権が武力だけでなく、大陸の進んだ文化技術を勢力拡大に利用したのはなぜだろうという疑問を投げかけ、次時の学習に関連づけ、見通しをもたせる。		

4 成果

- 須恵器などの実物資料を、実際に見たり触れたりすることにより、具体的なイメージをもって学習内容の理解を深めることができた。
- 導入場面において、博物館ならではの資料を提示したことにより、本時の学習内容と身近な地域の歴史との関連が図られ、具体的なイメージをもって学習に取り組むことができ、生徒の学習意欲も高まった。
- 学芸員をゲストティーチャーとして招き、生徒にとっての情報ツールの一つと位置付け、本時の学習内容と身近な地域の歴史との関連が図られ、学習課題についての予想が覆されて生徒がさらに関心をもって課題追究に取り組むことができた。

中学校第 1 学年 社会科 指導カード

1 単元名 「古代までの日本～日本はどのように国としてまとまっていったのだろう～」

2 指導計画（8／9 時間扱い）

- （1）人類の出現と進化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 時間
- （2）古代文明のおこりと発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 時間
- （3）中国文明の発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 時間
- （4）ギリシャ・ローマの文明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 0.5 時間
- （5）宗教のおこりと三大宗教・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 0.5 時間
- （6）日本列島の誕生と縄文文化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 時間
- （7）弥生文化と邪馬台国・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 時間
- （8）大王の時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 時間（本時 2/2）
- （9）単元のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 時間

3 実際の指導（8／9 時間）

（1）目標

＜思・判・表＞大和政権がどのように勢力を広げていったのかを、身近な地域資料やゲストティーチャーの解説等を通して、多面的・多角的にとらえ、適切に表現している。

（2）展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ ☆評価	□館職員の働きかけ ◎資料活用のポイント	資 料 名	時 間
1 前時の復習 ・前方後円墳の存在から、大和政権と川越がかかわりをもっていた。 ・大和政権は進んだ大陸の文化や技術を勢力拡大に利用した。	□前時の学習内容をまとめたカードを掲示し、復習に要する時間を短縮する。 ○大和政権が鉄製武器を使い、武力によって勢力を拡大したという予想は一面的であったことを確認させる。		・前時の学習内容の掲示物 ・前時の各班の予想	
2 本時の学習課題を知る。				
大和政権が大陸の進んだ文化や技術を勢力拡大に利用したのはなぜだろう。				
3 本時の学習課題について、個人と班で考える。 ・個人の考察 ・班の話し合いとまと	○個人で考えた結果をもとに、意見交換をしながら、4 人班で考えをまとめ、要点をホワイトボードに記載する。相関図にして図式化するなど、視覚的にもわかりやすい工夫させる。 □生徒の活動状況を見ながら、授業者とともに必			

め 4 各班の考えを発表する。(代表者、2分以内) ・武力ですべての豪族を従えるのは難しい。 ・武力での争いでは、対立が解決しない。 ・武力で制圧されると、いつ反抗されるかわからない。 ・進んだ文化や技術を利用して仲間にする方が従えやすい。 5 発表内容について学級全体で話し合う。 6 ゲストティーチャーの指導講評を受ける。 ・各班の発表内容に対して、裏付けになる資料を見たり、異なる視点からの考え方などを聞く。 7 東アジアにおける大和政権の状況を「倭王武」の手紙から確認する。 ・朝鮮半島への進出と高句麗との対立 ・南朝（宋）との関係 8 学習課題について自分の考えをまとめる。	要に応じ、適切に指導や助言を行い、活発な意見交換を促す。 ○以下のように発表を聞くポイントを示す。 ※前時や本時の情報や学習成果が適切に活用されているか。 ※論理的な説明になっているか。 ※自分や自分の班の考え方と共通している点や異なる点に留意して聞く。 ○各班の発表を聞き、自分の班との共通点や視点の異なる内容等に着目させ、多面的・多角的に考えさせる。 ○発表内容について自由に意見を述べさせて、発表内容の共有化を図る。 □各班の発表内容について、専門的な見地から指導講評や補足説明等を行う。 ○大陸の先進文化や技術を利用して、大和政権は勢力を広げ、国としてまとまっていったことを理解させる。 ○弥生時代は多くの国が形成されていたが、争いが続いたため、1つにまとまることができなかったことにふれ、武力のみに頼らないで、統一が進んだ古墳時代との違いに気づかせる。 □ゲストティーチャーに専門的な見地から補足の説明をしてもらい、大和政権が朝鮮半島や中国など東アジアとのかかわりを深めていたことが、「倭王武」の手紙を通して裏付けられたことを押さえる。 ○2時間の学習課題を振り返り、大和政権がどのように勢力を広げていったかという学習課題について、ワークシートに自分の考えをまとめさせる。 ・B基準からA基準への支援 前時や本時の学習内容を再度確認させ、それらを根拠に考えをまとめるよう助言する。	・「倭王武の手紙」 ・教科書の東アジアの地図 ・ワークシート ・ワークシート
--	---	---

	・ B 基準に達しない 前時や本時の学習内容におけるキーワードなどに着目させ、自分の考えを書けるよう助言する。 ☆大和政権がどのように勢力を広げていったのかを、身近な地域資料やゲストティーチャーの解説等を通して、多面的・多角的にとらえ、適切に表現している。 思・判・表		
	大和政権は、東アジアとのかかわりをもちながら、武力だけに頼らず、進んだ大陸の文化や技術を利用して勢力を広げた。		

4 成果

- 学習課題についての生徒の話し合いの場面で、ゲストティーチャーである学芸員が助言を与えたり、発表内容に専門的な見地から指導講評を行ったり、必要に応じ補助説明を加えたりすることにより、生徒の意見や考えに学問的な裏付けをしてもらうことができ、生徒は自信をもって学習に取り組むことができた。
- 生徒同士だけでなく、ゲストティーチャーという他者とかかわる協働的な学習活動により、歴史的現象を多面的・多角的にとらえることができ、「対話的で深い学び」を促したと考えられる。

〈全体として〉

本実践の成果の第一として、川越市立博物館と連携し、資料や学芸員を適切に活用し、身近な地域教材と関連づけて学習課題を設定するなどの工夫により、生徒の学習意欲を高め、課題解決に主体的に取り組むことができた。授業後、生徒対象に博物館との連携に関するアンケートを実施したところ、ほぼ全員が「学習課題の解決に役立った」と回答し、具体的なイメージをもって学習できたことをはじめ、理解が深まったり、興味関心が高まったりしたこと、考察や班の話し合いに役立ったなどの点で高い回答率が得られた。ゲストティーチャーである学芸員が、各班の発表内容に講評を加えたことも、異なる視点から考えが深まり、学問的な裏付けが得られたと生徒は肯定的に認識している。

次に、グループ学習において、生徒同士が話し合いや意見交換、発表などの学習活動を通して、学習成果を共有し、大和政権の統一について理解を深め、多面的・多角的に捉えることができた。このような他者とかかわる協働的な学習活動により、生徒に「深い学び」を促したと考えられ、さらに、文章で記述させた学習のまとめも、大多数が「十分満足できる」または、「おおむね満足できる」基準に達しており、自分の考えを文章で表現することについても効果的であったといえる。

今後も、学校の教育課程に位置付けた博物館の活用に努めることで、身近な地域の歴史認識を深めるとともに、生徒の主体・対話的な学習を促し、「追究する力」の育成を図っていくことが課題である。

中学校第2学年 社会科 指導カード

1 単元名 「近世の日本」

2 指導計画（17時間扱い）

（1）ヨーロッパ人との出会いと全国統一	6 時間
（2）江戸幕府の成立と鎖国	4 時間
（3）産業の発達と幕府政治の動き	7 時間
①農業や諸産業の発達	1 時間
②都市の繁栄と元禄文化	1 時間
③享保の改革と社会の変化	1 時間
④田沼の政治と寛政の改革	1 時間
⑤新しい学問と化政文化	1 時間
⑥外国船の出現と天保の改革	1 時間
⑦「近世の川越」を学ぼう	1 時間（本時）

3 実際の指導（17／17時間）

（1）目標

＜表＞「近世の川越」を、魅力あふれる紹介文にまとめることができる。

＜知＞江戸時代になって政治的に社会が安定し、都市を中心に町人文化が発達するなか、近世の川越でも町人が生き生きと生活していたことを理解する。

（2）活用する資料

教科書ページ	資料名(図録ページ)等	活用の仕方	ね ら い
教科書（P104）	・江戸図屏風(ターポリン) 常設展示図録(P73)	・江戸時代の学習内容を振り返る。	・江戸時代の町人の文化が身近な地域にあることを知り、川越に対する郷土愛を育む。
教科書（P121）	・長善館、寺子屋資料 常設展示図録(P86・87)	・博物館の資料から、近世の川越の様子を想像する。	・実物資料に触れることで、「近世の川越」を身近に感じる。
教科書（P120）	・伊能忠敬の地図 ・女大学	・博物館職員から資料についての解説を聞く。	

（3）展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名 (展示場所)	時
1 近世の社会の様子を振り返る。 ・幕藩体制 ・産業の発達 ・町人文化の広がり	○江戸図屏風を見て、近世（江戸時代）の社会の様子を振り返らせる。 ○博物館職員を紹介する。 □自己紹介をし、江戸図屏風について簡単に解説する。	・江戸図屏風 (ターポリン)	10 分

2 本時の課題を確認する。	○「博物館の資料を利用して、近世の川越はどのようなだったのかを知る」という視点を提示し、学習の見通しをもてるようにする。		
博物館の資料から、「近世の川越」を学ぼう！			
3 近世の川越に関する資料と、博物館職員の解説を聞き、「近世の川越」を考える。 (1) 近世の川越 ・藩校、寺子屋の発達 ・和算の普及 ・伊能忠敬	○博物館職員から教育の普及や算額の話聞き、近世の川越の様子を考える。 ○伊能忠敬が川越に立ち寄ったことを紹介する。 ◎教科書や資料集を活用させて、近世の川越に対する関心を高めるようにする。 □算額と伊能地図について、解説する。 □近世の川越について補足の解説をする。 ☆「近世の川越」について理解する。(理)	・長善館資料 ・寺子屋資料 ・算額 ・伊能地図	10分
(2) 「女大学」の内容を読み取る。	○女大学の内容に共感できるものと共感できないものを、班ごとに話し合わせる。 ◎江戸時代の先人の気持ちを想像させる。 □女大学について、解説する。	・女大学 (実物資料)	15分
(3) 「近世の川越」を紹介する文をまとめる。 	○資料を活用して、魅力あふれる「近世の川越」を紹介する文をまとめ発表する。 ☆「近世の川越」の魅力あふれる紹介文をまとめる。(表)		10分
4 本時の学習を振り返る。 ・感想用紙の記入	○博物館職員の話をもとに感想が書けるようにする。	・感想用紙	5分

4 成果

- 生徒が川越を紹介する次のような文章を書いた。「江戸時代の川越は、江戸幕府の配下に置かれていました。政治の中心は川越藩、経済の中心は城下町で、江戸幕府からも信頼されていました。川越は寺子屋の師匠の分布も多く、頭の良い人が多かったと言えます。和算の難しい問題を解いた記録が、今も算額として残っています。」
- 市立博物館にある、江戸図屏風や女大学などの資料を間近に見たり触れたりすることで、歴史に対する関心や川越市に対する興味が高まった。
- 寺子屋で使われた「女大学」について班で話し合い、現代とは異なる価値観に触れることで、江戸時代の子どもに対する親近感をもった。

中学校第3学年 社会科（歴史） 指導カード

1 小単元名 「第二次世界大戦と日本」

2 指導計画（5時間扱い）

- （1）第二次世界大戦の始まり・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- （2）太平洋戦争の開始・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- （3）戦時下の人々・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- （4）戦争の終結・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- （5）戦時下の国民の様子を実感しよう（復習）・・・・・・・・1時間（本時）

3 実際の指導（5／5時間）

（1）目標

＜関＞博物館の資料から、日本が実際に経験した戦争への関心を高める。

＜表＞博物館の資料や職員の話をもとに感じたことを意見し、自分の言葉でまとめることができる。

（2）本時に活用する資料

教科書ページ	資料名（図録ページ）等	活用の仕方	ねらい
戦時下の人々 （P210～211）	（実物資料） ・軍服、防弾帽など ・木銃 ・陶器製手榴弾 ・学校日誌	・兵隊の軍服、防弾帽など実物資料を着用する。 ・木銃が何かを予想し、使い方を体験する。 ・陶器製手榴弾について、何に使われたものを予想させる。 ・学校日誌で、当時の生活の様子を把握する。	・戦争体験者も少なくなり、戦争の悲惨さに関する理解への現実味が薄れている。実物資料に触れ、当時の様子を知ることにより、現実感を持たせ、関心を高める。 ・実物資料から、当時の日本の様子について、理解を深める。

（3）展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名	時
1 太平洋戦争について学んだことを確認する。 （復習）	○戦時中の人々の生活を中心に確認をする。	ワークシート	10分
2 実物資料を利用した授業であることを知る。	○博物館職員の方を紹介する。 □自己紹介をする		
3 本時の課題を確認する。	戦時下の国民の様子を実感しよう。		

4 軍服、防弾帽、木銃などを見て、戦争に対しての現実感を高める。 	○生徒の数名に感想を聞く。戦争について現実感を持たせる。 □着用の仕方、使用方法など、補足する。 当時の学校日誌で読み取れるようであれば、当時の学校の様子についても触れる。 ☆資料から戦争への関心及び戦時中の生活への関心を高めている（関）	軍服 防弾帽 木銃 学校日誌	30分
＜班活動＞ 「これは何だろう」 	  5 「陶器製手榴弾」が何に使われたものか考える。 6 「陶器製手榴弾」がつくられたのはなぜかを考える。 7 「陶器製手榴弾」について知る。	陶器製 手榴弾	
8 本時のまとめ (感想用紙の記入・発表) ・戦時中の生活の様子について、感じたことをまとめる。	○感想用紙を配布し、本日の授業で感じたことを記入させる。 時間があれば、数名を指名し、発表させる。 ☆感じたことを自分の言葉でまとめている。(表)	感想用紙	10分

4 成果

- ・「写真ではわからないものを実感した。」「戦争の恐ろしさを知った。」など、戦争に対しての現実感が深まる様子が見られた。
 - ・「博物館の職員の話の中で、時の鐘は川越市の人が守ったことを知り、昔の人のありがたみを知った。」など、郷土への愛着が生まれる機会となることが感じられた。
 - ・「戦争時の情景が浮かんだりして、授業で学んだことが頭に入りやすかった。」など、学習面での興味や理解の定着にも効果が見られた。
- 社会科の授業では、写真などの資料の活用が効果的であるが、実物資料の効果の高さを実感する機会となった。今後も歴史分野を問わず、「授業内容の理解」「郷土への愛着」に、あらゆる場面での、博物館の実物資料の活用を考えたい。

小学校第3学年 総合的な学習 指導カード

1 単元名「ひろめよう わたしたちのまちの宝」

2 指導計画（30時間扱い）

- （1）川越市に残るものについて知ろう・・・・・・・・・・5時間（本時）
- （2）川越市にある宝について調べよう・・・・・・・・・・7時間
- （3）自分たちが伝えたい宝について見つめ直そう・・・・・・・・4時間
- （4）「わたしたちのまちの宝」発表会をしよう・・・・・・・・14時間

3 実際の指導（4/30時間）

（1）目標

〈学び方・ものの考え方〉

川越市に残る伝説や行事、建造物などにふれ、伝統という宝に気づくことができる。

（2）本時に活用する資料

教科書ページ	資料名（図録ページ）等	活用の仕方	ねらい
	・初雁の杉跡 ・三芳野神社 ・霧吹きの井戸 ・富士見櫓	博物館職員からそれぞれの場所の歴史や伝説などの解説を聞く。	川越に残るものにふれて関心を持たせ、今後の自分の活動への意欲を高める。

（3）展開

学習活動・学習内容	☐ 教師の働きかけ ☐ 館職員の働きかけ ☒ ☆評価 ☒ ◎資料活用のポイント	資料名	時間
1 本時の課題を確認する。	☐ 学習の見通しを持てるようにする。 ☐ 博物館職員の紹介をする。 ☐ 自己紹介をする。		3分
よく見たり博物館の人の話をよく聞いたりして、川越に残るものについて知ろう。			
2 川越のむかしのものめぐりをする。（川越城の七不思議）	☐ 安全に学習することができるよう、「川越のむかしのものめぐり」の注意を確認する。 ☐ 見学をしたり解説を聞いたりしながら、川越に残るものに興味をもち、自分も調べてみたいという気持ちになるようにする。 ☐ 川越城の七不思議についての簡単な紹介をし、その中のいくつかを実際の場所に見に行くことを伝える。	4箇所を 約10分ずつ (移動時間含) ・川越城の七不思議	40分

・各箇所へ移動し、見学をする。 ・各箇所へ博物館職員の解説を聞く。 ・必要なことをメモする。 ・複数学級の場合は、それぞれスタート箇所を変えて回る。	◎実際のものを見て、さらに解説を聞くことにより、川越に残るものへの関心を高める。 三芳野神社 □「とおoryんせ」の歌発祥の地に関する歴史や伝説などの解説をする。 初雁の杉跡 □「初雁の杉」と呼ばれるようになった伝説などの解説をする。  霧吹きの井戸 □「霧吹き	 ・三芳野神社 ・初雁の杉跡  ・霧吹き ・富士見櫓  2分
3 次時の取り組みを知る。	○次時からは自分でテーマを決め、調べ、まとめていくことを伝え、今後の活動の見通しを持つことができるようにする。	

4 成果

○普段とは違う環境で、担任とは違う専門的な先生から話を聞くことができ、興味を持って解説を聞いたり見学したりすることができた。

○わからないことがあったときに、すぐに質問し、詳しく教えてもらうことができた。

○児童の感想

「七不思議の中のできごとについて、詳しく知れてよかった。」「七不思議の説明を聞いて、もっと知りたくなりました。」「博物館の人の話を聞いて、お城の様子を想像することができました。」

小学校第6学年 総合的な学習の時間 指導カード

1 単元名 「日光へ行こう」

2 指導計画（23時間扱い）

- （1）日光の歴史について調べよう・・・・・・・・・・ 2時間（内1時間 本時）
- （2）日光の建物について調べよう・・・・・・・・・・ 2時間
- （3）日光の自然について調べよう・・・・・・・・・・ 2時間
- （4）修学旅行の準備・・・・・・・・・・ 5時間
- （5）「修学旅行を語る会」発表用スライドを作ろう・・・・・・・・ 8時間
- （6）「修学旅行を語る会」の発表練習をしよう・・・・・・・・ 2時間
- （7）「修学旅行を語る会」・・・・・・・・・・ 1時間
- （8）学習のまとめ・・・・・・・・・・ 1時間

3 実際の指導（1／23時間）

（1）目標

【よりよく問題を解決する資質や能力】

博物館の資料や職員の話から、日光と川越、徳川家との関わりについて知り、今後追求する課題を見つけようとしている。

（2）本時に活用する資料

資料名（図録ページ）等	活用の仕方	ねらい
・江戸図屏風(ターポリン) (P73) ・三十六歌仙額 (P83)	・資料から気づいたことをまとめる。 ・博物館職員から資料について解説を聞く。	・日光が川越、徳川家との関わりがあることに 関心をもたせる。

（3）展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名	時間
1 これからの学習の見通しをもつ。	○修学旅行先の日光について調べ、まとめていくことを伝え、これからの学習の見通しをもてるようにする。 ○博物館職員を紹介する。 □自己紹介をする。		4分
2 本時のめあてを確認する。 ・めあての把握	日光の歴史や日光と川越、徳川家との関わりを知ろう。		

3 日光の歴史や日光と川越、徳川家との関わりを知る。	□日光の歴史、日光と川越、徳川家との関わりについて話をする。 ◎江戸図屏風の中には川越の様子が描かれていたり、東照宮(日光、仙波)の中には川越や徳川家にゆかりのある人物が寄進したものがあつたりすることから、日光と川越に関わりがあることに気づかせる。	・東照宮参拝案内図(プリント) ・江戸図屏風(ターポリン) ・三十六歌仙額	25分
4 本時の学習を振り返る。 (1)感想用紙の記入 (2)感想発表	○本時を振り返り、感想を書かせる。 ○感想発表をさせる。 ☆博物館の資料や職員の話から、日光と川越、徳川家との関わりについて知り、今後追求する課題を見つけようとしている。資		15分
5 本時のまとめ ・教師、博物館職員から	□本時のまとめの話をする。 ○本時のまとめと次時の話をする。	・ワークシート(感想)	1分

4 成果

ねらいとしていたものが、この授業で達成されたと考えられる。児童の感想の中には、「川越城主の人が江戸で重要な役割をしていて、うれしかった」、「川越の何気なく見ていた景色がとても変わった」というものがあり、日光についての学びを通じて、自分の郷土、川越に対する誇りをもつことができた。

中学校第3学年 英語科 指導カード

1 単 元 名 「My Project 8 伝統文化を説明しよう」 Sunshine Course 3

2 指導計画 (3時間扱い)

(1) 日米の伝統文化について述べた英文を読んでその構成・内容を分析・理解し、次回スピーチ原稿を書く事前準備をする。

(2) 身近な伝統文化を1つ選び、調べ、その内容を説明する英語の文章に直す。(本時)

(3) 英語に直したスピーチ原稿を推敲してから清書し、口頭で発表する。また、友達の発表を聞いて、その内容を理解する。

3 実際の指導

(1) 目 標

【関心・意欲・態度】

わからない表現があっても、AETに質問するなどして意欲的に英文づくりに取り組むことができる。

【表 現】

日本語のメモを利用して、伝統文化を説明する英文を作ることができる。

(2) 本時に活用する資料

資 料 等	ね ら い
教科書P62～65	文化理解に関する英文のモデル提示、文章構造・内容を理解する
川越市の伝統文化財のポスター	身近な伝統文化を視覚的にとらえ、説明の英文作りに役立てる

(3) 展 開

学習活動・学習内容	○ 教師の働きかけ □ 館職員の働きかけ ☆ 評 価 ◎ 資料活用のポイント	時 間
1 あいさつ	○ 英語の授業のあいさつをする ○ デイリークエスチョンを行う	5 分
2 復 習	○ 英語特有の表現「後置修飾」を復習する ○ 「後置修飾」が使われている表現を口頭で復習する	5 分
3 本時の目標の 確認	○ 本時の活動と目標を話す □ 館職員に文化財等のポスターを予め作成してもらう ◎ 黒板に川越市文化財等のポスターを貼り、臨場感を もたせる	5 分
4 英文を作る	○ 生徒各自が調べてきた日本語の資料（メモ）をもとに 文化財等を説明する英文づくりに取り組ませる ○ 既習事項を生かした英文を作らせる ○ わかりやすい英文になるよう全体の構造を考えさせる ☆ 伝統文化を説明する英文を作ることができる（表現） ☆ わからない表現があっても、教師に質問する等して 意欲的に取り組むことができる（関心・意欲・態度） ☆ 既習の文法事項を利用して英文を作ることができる （表現）	3 1 分
5 ま と め	○ 本時を振り返り次回の授業について予告する ○ 次回の授業について連絡する	3 分
6 あいさつ	○ 英語の授業のあいさつをする	1 分

(4) 成 果

- 気軽に A E T に質問するなどして意欲的に英文に取り組めた。
- 簡単な日本語のメモから、伝統文化を説明する英文を作ることができた。

中学校第 3 学年 英語科 指導カード

1 単元名「英語で川越の観光案内をしよう」

2 指導計画（3 時間扱い）

- | | |
|--------------------------------------|----------|
| （１）観光案内用の英文作成・添削・・・・・・・・・・・・・・・・ | 1 時間 |
| （２）観光案内用の英文作成・発表指導・・・・・・・・・・・・・・・・ | 1 時間 |
| （３）模擬川越観光サポート（外国人に川越の文化・観光地を紹介する）・・・ | 1 時間（本時） |

3 実際の指導（3 / 3 時間）

（１）目標

〈表現〉初めて出会う外国人に、グループで観光案内をすることができる。

（２）本時に活用する資料

資料	活用の仕方	ねらい
川越の観光地や文化財とその写真	・外国人に観光案内をするときに示す。	・実際に写真で見せることでその観光地や文化財の様子を視覚的に知ってもらえる。

※授業では川越市内の A E T 6 名に参加していただいた。

（３）展開

学習活動 学習内容	○教師の働きかけ ☆評価 □ A E T の働きかけ ◎ A E T 活用のポイント	時間
<導入> 1 あいさつ 2 本時の目標の確認 3 ゲストティーチャーの紹介とあいさつ	○あいさつ ○本時の確認と目的を話す 英語で川越の観光案内をしよう ○ゲストティーチャーの紹介 Today, I'll introduce you guest teachers from □あいさつ I'm Nice to meet you. ◎実際の授業では始めに A E T であることを明かさずに、川越在住の外国人であることだけを生徒に伝え、外国人観光客のようにふるまってもらった。	8 分

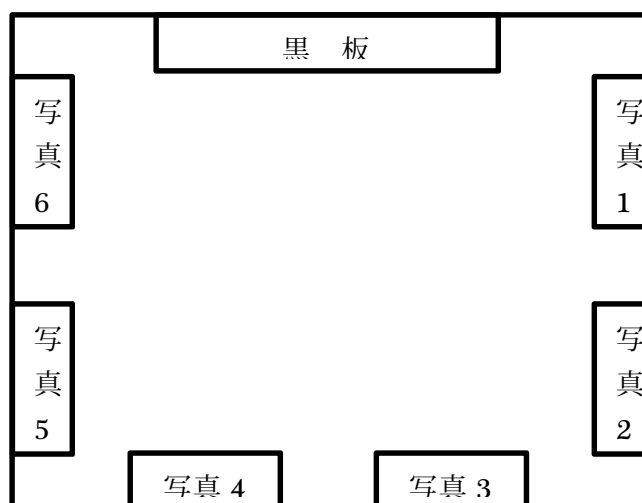


<展開> 4 各グループで模擬観光サポート	○各担当の班ごと（6つの班）に分かれ、準備をさせる。 準備ができれば、ゲストティーチャーには1カ所5分間でローテーションをしてもらう。（教師は5分ごとに合図をする） □各担当の場所へ行き、生徒の観光案内を受ける。 □案内が終わったところから生徒へアドバイスをしてもらう。 ◎わからないことや伝わらなかったことはどんどん質問をしてもらい、生徒とコミュニケーションを図ってもらう。 ☆初めて出会う外国人に、グループで観光案内をすることができる <表現>	35分
<まとめ> 5 ゲストティーチャーの講評 6 自己評価 7 あいさつ	□生徒の説明を聞いて感想やアドバイスを言ってもらおう。 ◎良かった点や改善点を具体的に話してもらおう。 ○本日の授業を振り返って、できたところと改善すべき点をプリントに記入し、観光サポートの本番に活用させる。 ○あいさつ	7分

（４）教室の配置（当日は机や椅子のない第１音楽室を使用）

※生徒は班ごとに6ヶ所に分かれ、AETが1班から順にローテーションしていった。

※写真は自分の担当する場所の観光地や文化財（＊）の写真



＊生徒の担当場所

- ① 時の鐘
- ② 喜多院
- ③ 菓子屋横丁
- ④ 本丸御殿
- ⑤ 氷川神社
- ⑥ 博物館
- ⑦ 蓮馨寺
- ⑧ 熊野神社
- ⑨ りそな銀行・陶舗やまわ

4 成果

- 生徒は試行錯誤をしながらも、外国人を相手に必死に英語を使って観光案内を行っていた。
- 「授業が楽しかった」「またやってみたい」「もっと練習しておけばよかった」等、前向きな意見や感想を多数聞くことができた。
- 英語の学習において、生きた英語を使えることほど効果的で楽しいことはない。本研究を通して、英語科における博物館の新しい利用方法が提示できたことは一番の成果である。